



II-6

# 視覚障害者公共交通移動等円滑化経路

基本的な考え方▶

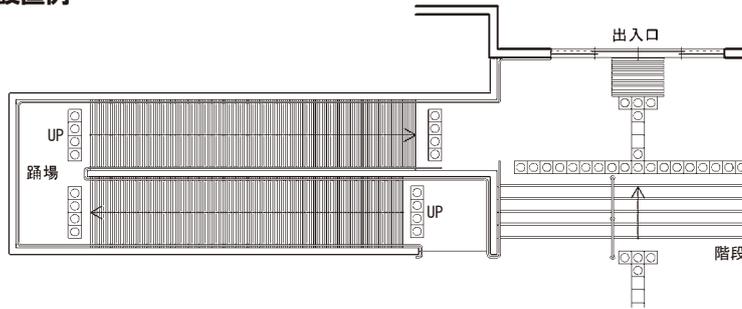
駅やターミナルの出入口から改札口を経て乗降口に至る経路は、視覚障害者誘導用ブロックや音声案内等により視覚障害者が円滑に利用できるようにする必要があります。施設内の主要施設に至る経路についても、同様の配慮が望まれます。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
視覚障害者公共交通移動等円滑化経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通路その他これに類するもので、公共用通路と公共輸送車両等の乗降口との間の経路を構成するものを、視覚障害者が円滑に利用できる経路（視覚障害者公共交通移動等円滑化経路）とし、以下の基準に適合する構造とする</li> <li>● 線状ブロック、点状ブロックを適切に組み合わせて床面に敷設、又は音声案内等により視覚障害者を適切に誘導できる構造（各設備に常駐する誘導員があつて適切な誘導が実施できる場合を除く）</li> <li>● エレベーターの乗降ロビーに設ける制御装置、出入口の案内装置（音声によるものを除く）、便所の出入口、乗車券販売所までの経路にそれぞれ線状ブロック、点状ブロック等を適切に組み合わせて床面に敷設</li> <li>● 階段、傾斜路及びエスカレーターの上下端に近接する通路等に点状ブロックを敷設</li> </ul>	

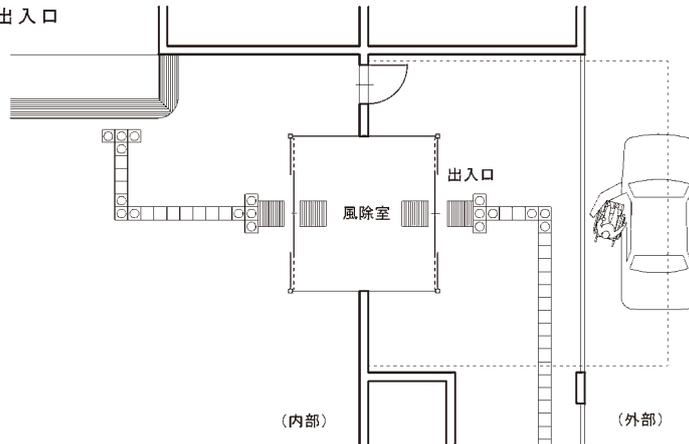
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 視覚障害者誘導用ブロックの設置例

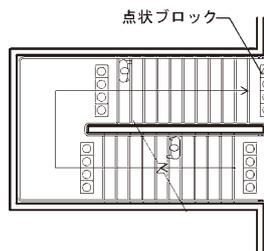
○敷地内の通路



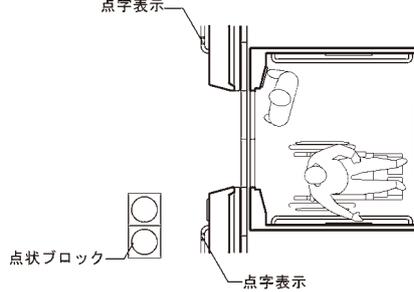
○建築物の出入口



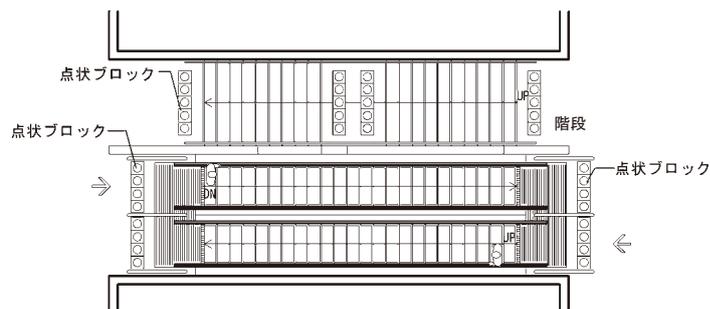
○階段



○エレベーター

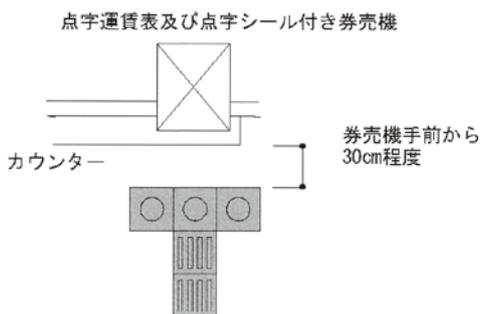


○エスカレーター

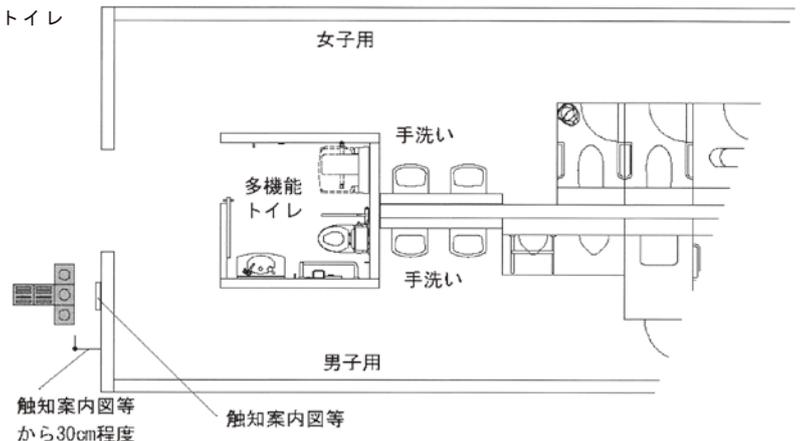


(出典：「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省（一部加工して使用）

○券売機



○トイレ



(出典：「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」国土交通省)



II-7

# 案内設備

基本的な  
考え方▶

施設を円滑かつ安全に利用するためには、案内板等によって適切に情報提供が行われることが求められます。そのため、案内板及び標示板は、障害者、高齢者等の利用に配慮したものとするとともに、避難用の誘導灯は、視覚障害者及び聴覚障害者への情報伝達に配慮したものとする必要があります。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
案内設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運行（運航）状況について、文字等により表示する設備及び音声により提供するための設備を設置（技術上の理由により設置できない場合を除く）</li> <li>● 移動等円滑化のための主要な設備または案内板その他の設備付近に、各設備があることを表示する標識（日本工業規格Z8210に適合するもの）の設置</li> <li>● 出入口付近に、移動等円滑化のための主要な設備の配置を表示した案内板その他の設備の設置（設備の配置が容易に視認できる場合を除く）</li> <li>● 避難用誘導灯を設ける場合は、視覚障害者及び聴覚障害者に配慮した構造（点滅型誘導音装置付誘導灯等）</li> </ul>	
案内板等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者、高齢者等に配慮した高さ、文字の大きさ</li> <li>● 視覚障害者に配慮した設備（文字等の浮き彫り、音声による案内、点字等）の設置</li> </ul>	

■ 各種サイン例



障害者が利用できる  
施設・設備を示す  
国際シンボルマーク



世界盲人連合が定めた  
盲人を示す国際マーク



世界ろう連盟が定めた  
聴覚障害者サイン

■ 各種案内板



音声案内

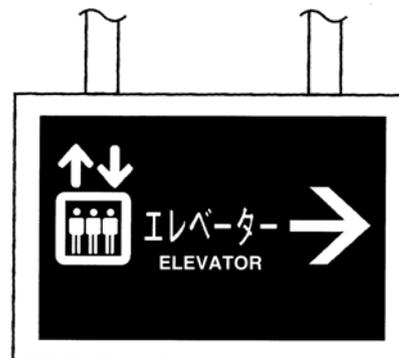
■ 入口方向を示す案内



■ 駐車場案内



■ エレベーター案内



■ 点滅型誘導音装置付誘導灯





Ⅱ-8

# 便 所

基本的な  
考え方▶

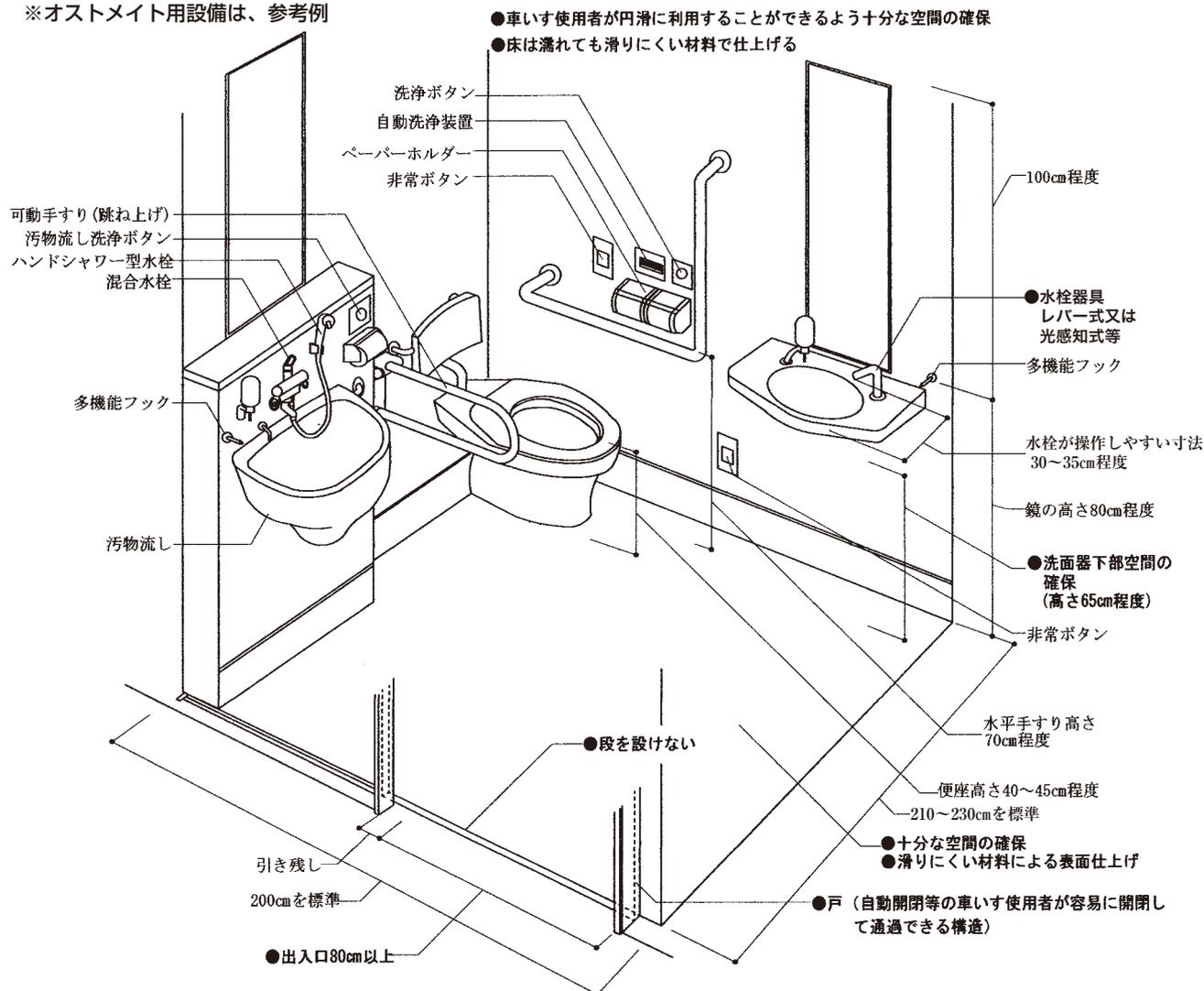
障害者、高齢者等が積極的に社会参加できるような環境を整備するためには、車いす使用者等が利用できる便所を設置することが必要です。その際、車いす使用者等の利用に配慮するとともに、一般の便所と一体的に設けることなどにより、車いす使用者だけでなく、だれもが気軽に利用できる便所にすることが大切です。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
便所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出入口付近に、男子用女子用の区分並びに便所の構造を視覚障害者に示すための設備（音、点字等）を設置</li> <li>● 車いす使用者用便所の設置</li> <li>● 車いす使用者用便所を設置している旨を出入口に見やすく表示</li> <li>● 濡れても滑りにくい材料による床面仕上げ</li> <li>● 車いす使用者の利用に配慮した高さ下部空間を備えた水洗器具</li> <li>● 水洗器具の両側への手すりの設置</li> <li>● 容易に操作できる水栓器具</li> <li>● 男子用小便器を設ける場合、両側に手すりのある床置き又は壁掛式（受け口の高さ35cm以下）その他これに類する小便器の設置</li> </ul>	
車いす使用者用便所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 便所及び便所の出入口の有効幅、それぞれ80cm以上</li> <li>● 戸を設ける場合は、車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造</li> <li>● 段を設けない</li> </ul>	

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 車いす使用者用便房

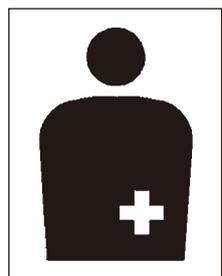
※オストメイト用設備は、参考例



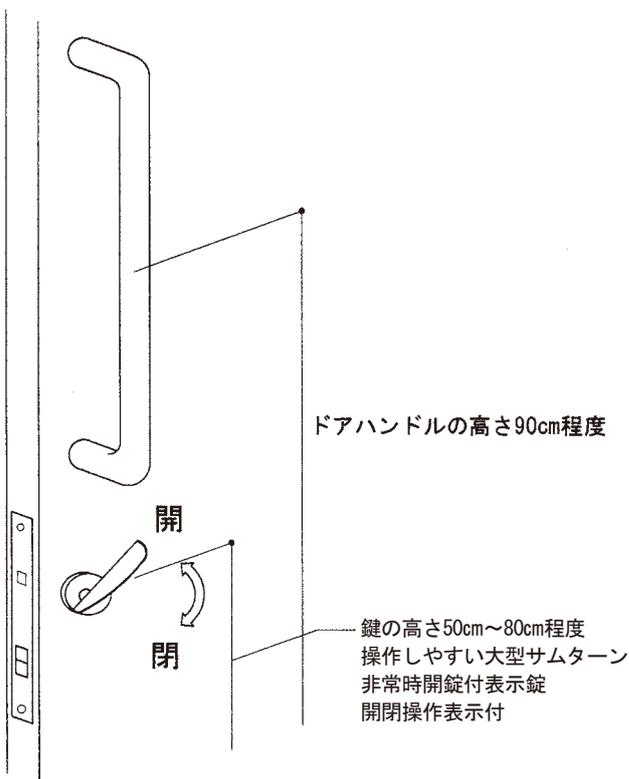
■ 便房設備の表示例



どなたでもお使いください



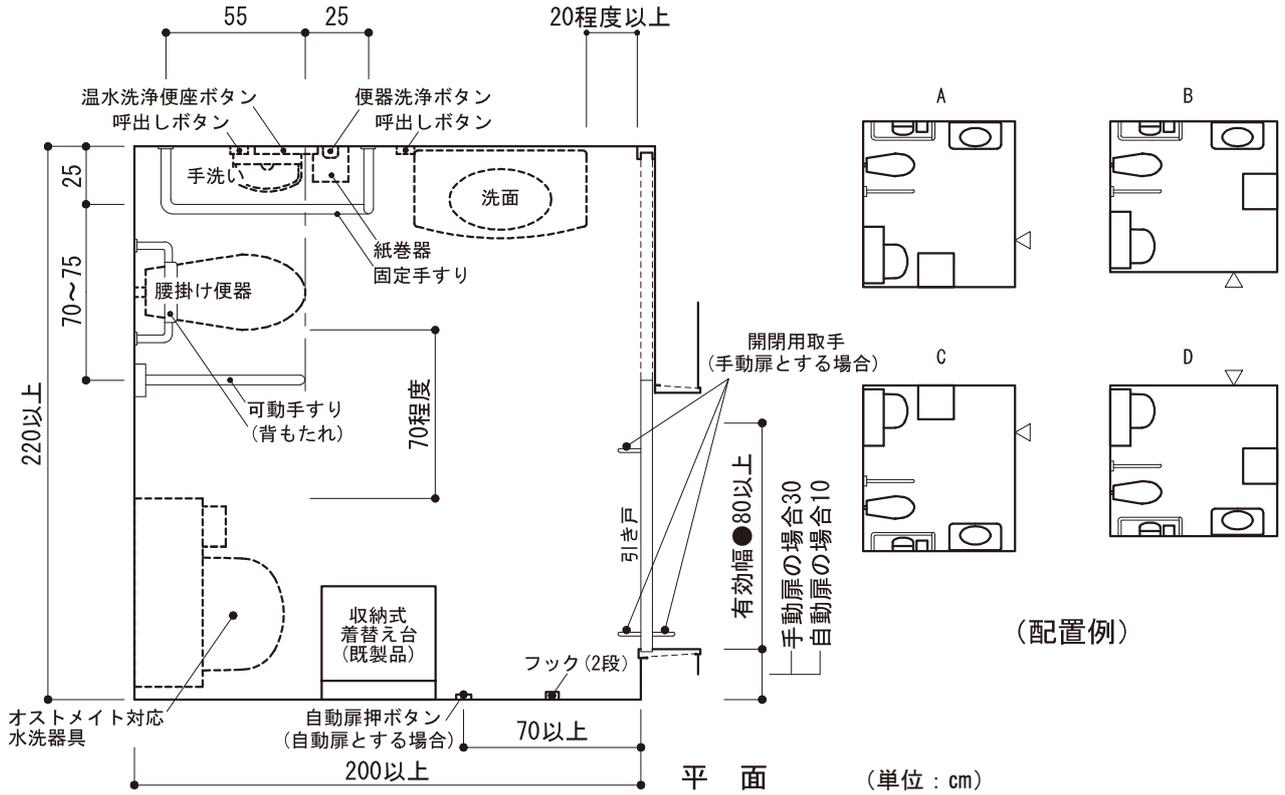
■ ドアハンドルの形状



## II-8 便所

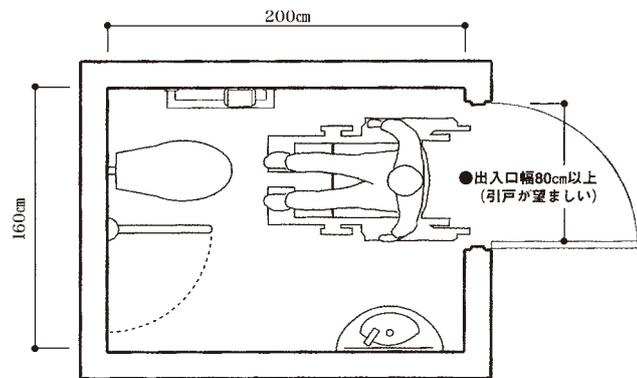
●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

### ■ 参考例：多機能便房(オストメイト用設備)



(出典:「建築工事標準詳細図平成28年版」国土交通省(一部加工して使用))

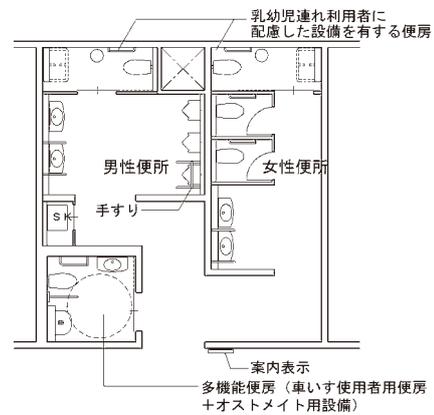
### ■ 建築設計上制限がある場合の車いす使用者用便房



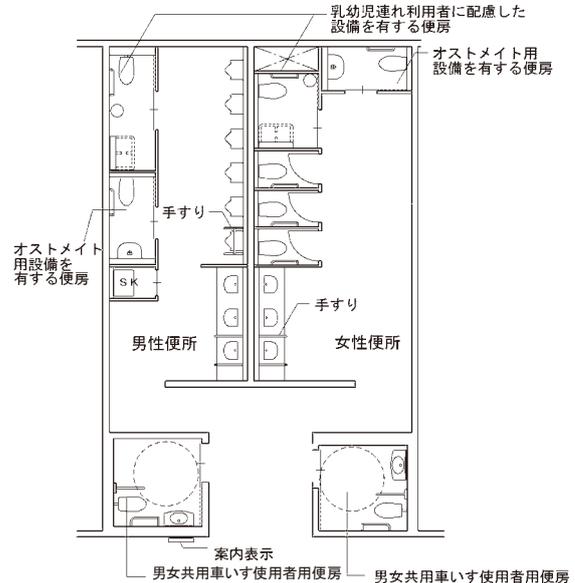
### ■ 便所・洗面所の例2\*



### ■ 便所・洗面所の例1\*



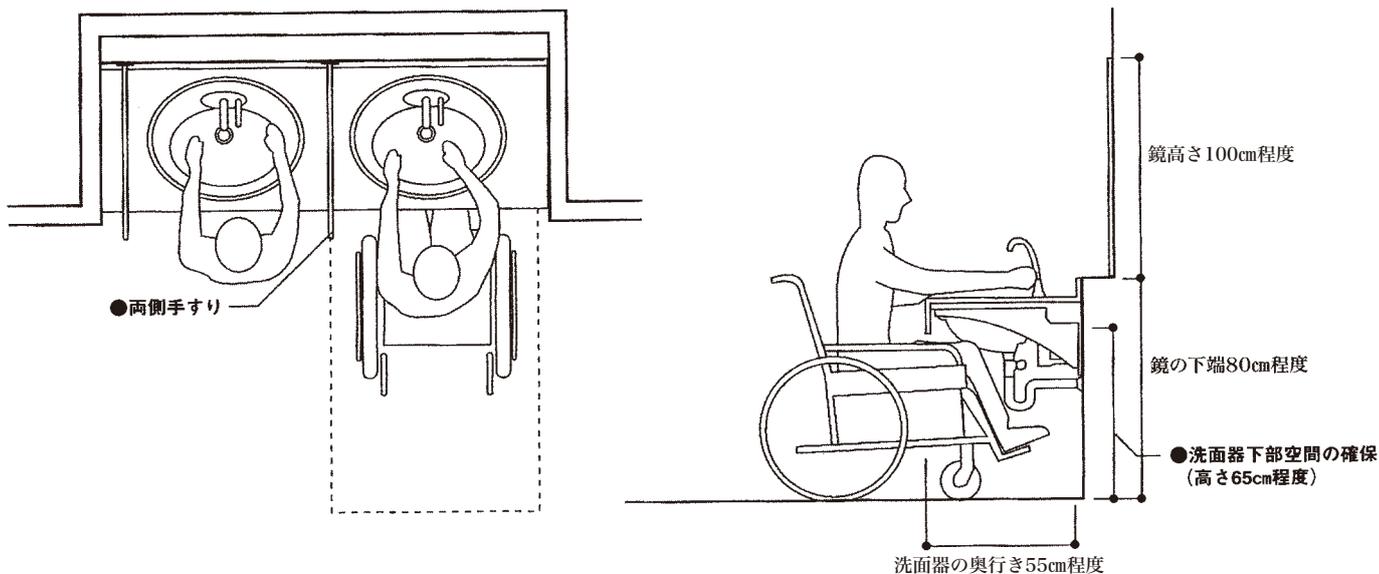
### ■ 便所・洗面所の例3\*



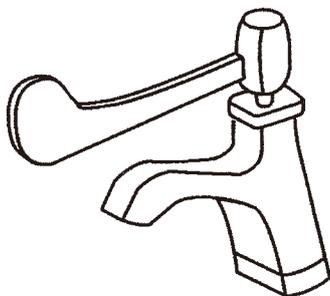
(※出典:「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」国土交通省(一部加工して使用))

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ 車いす使用者等の利用しやすいスペースを確保した洗面所



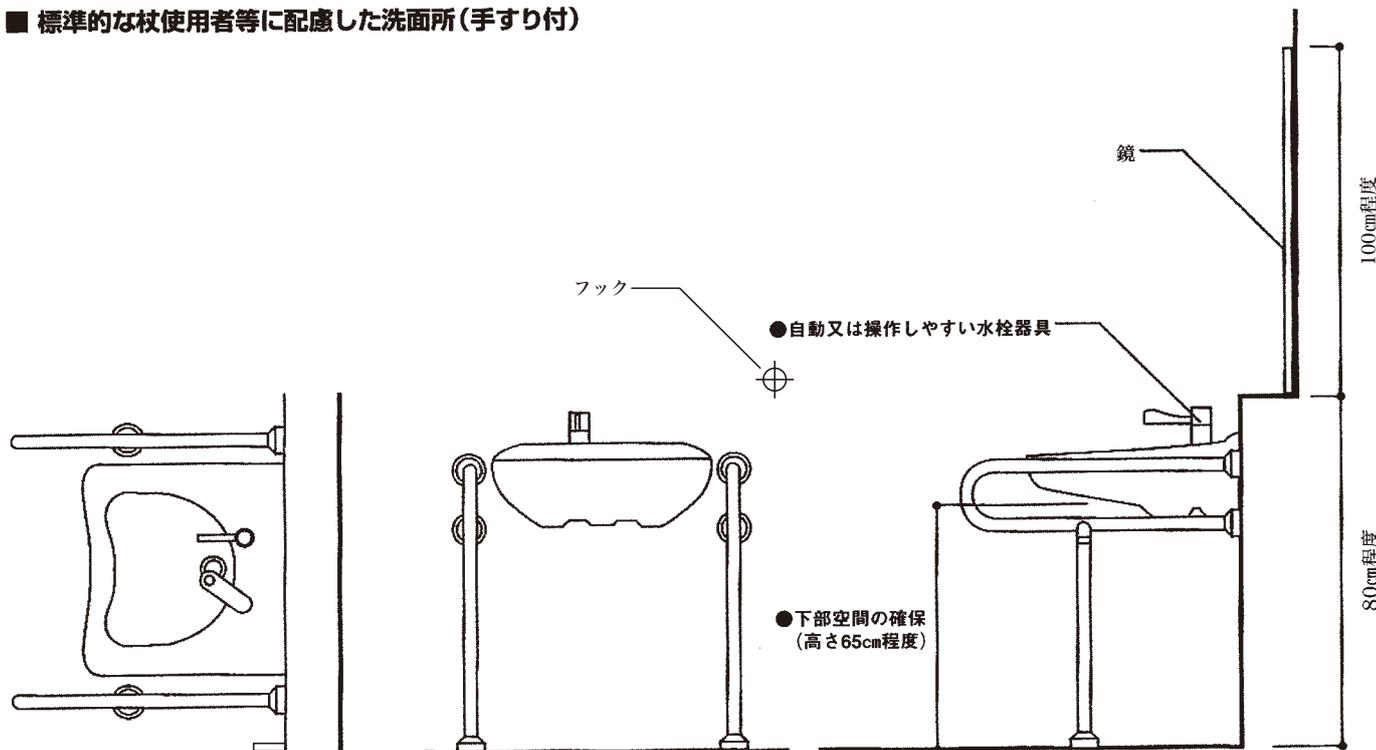
■ レバー式水栓器具



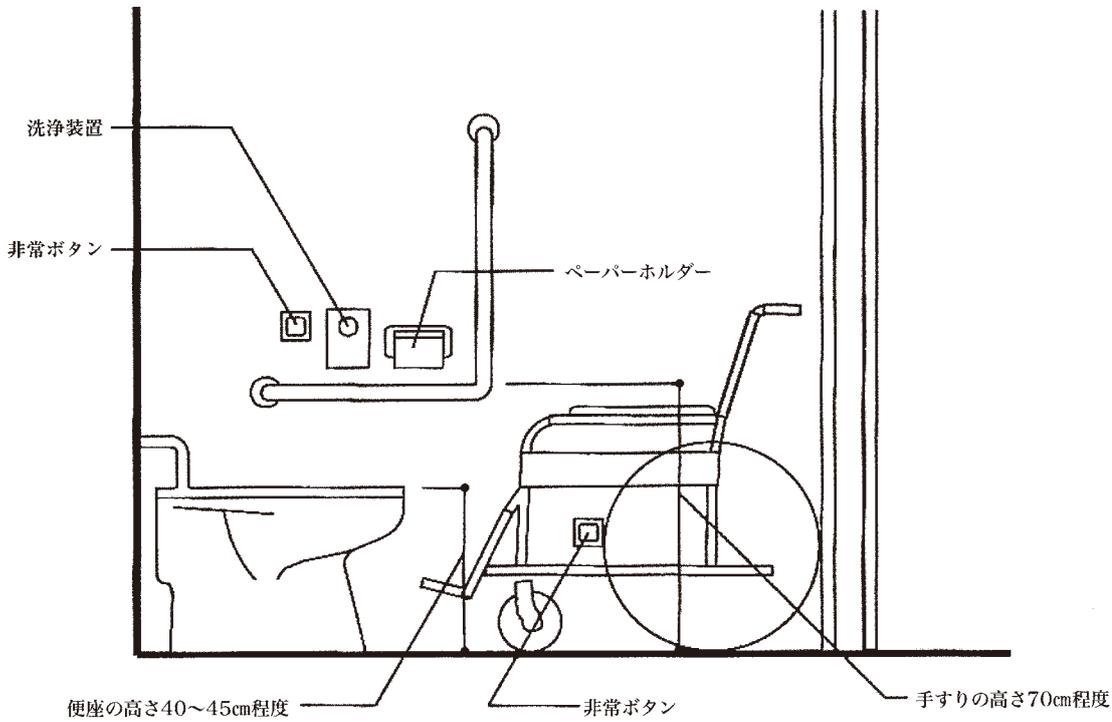
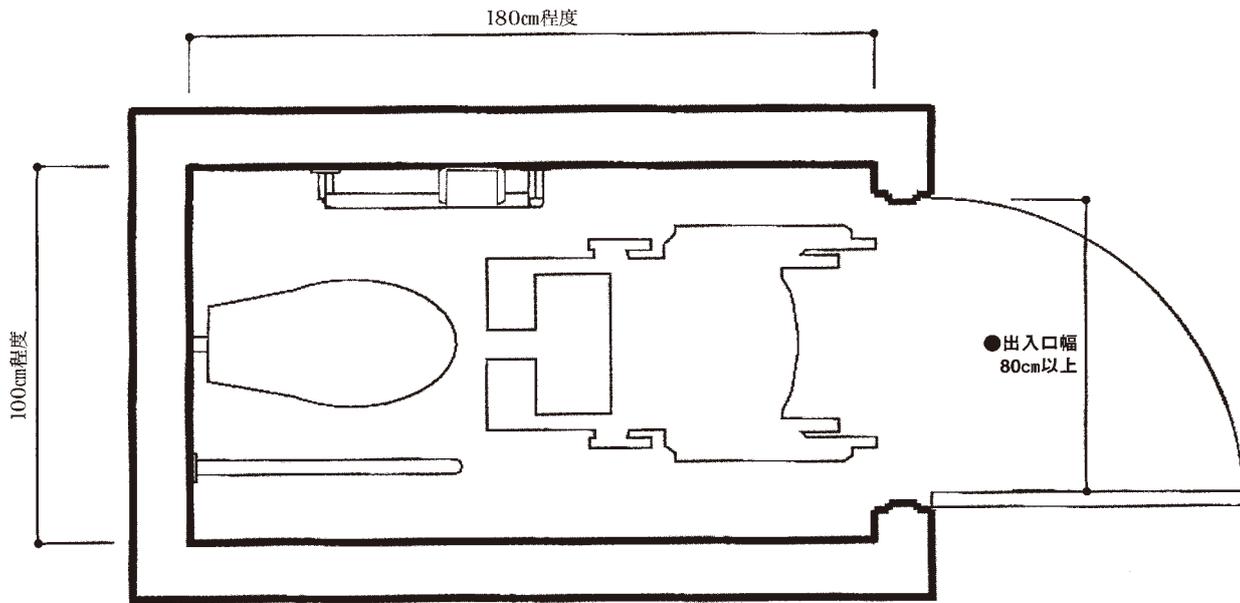
■ 自動水栓器具



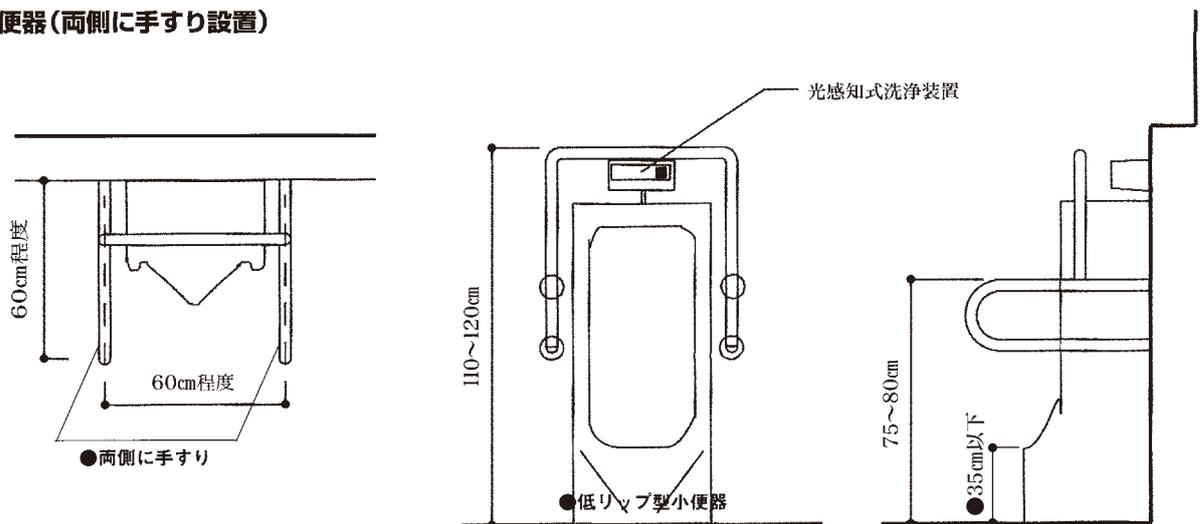
■ 標準的な杖使用者等に配慮した洗面所(手すり付)



■ 車いす使用者用便所に準ずる便所



■ 男子用小便器(両側に手すり設置)







II-9

# 乗車券等販売所、待合所及び案内所

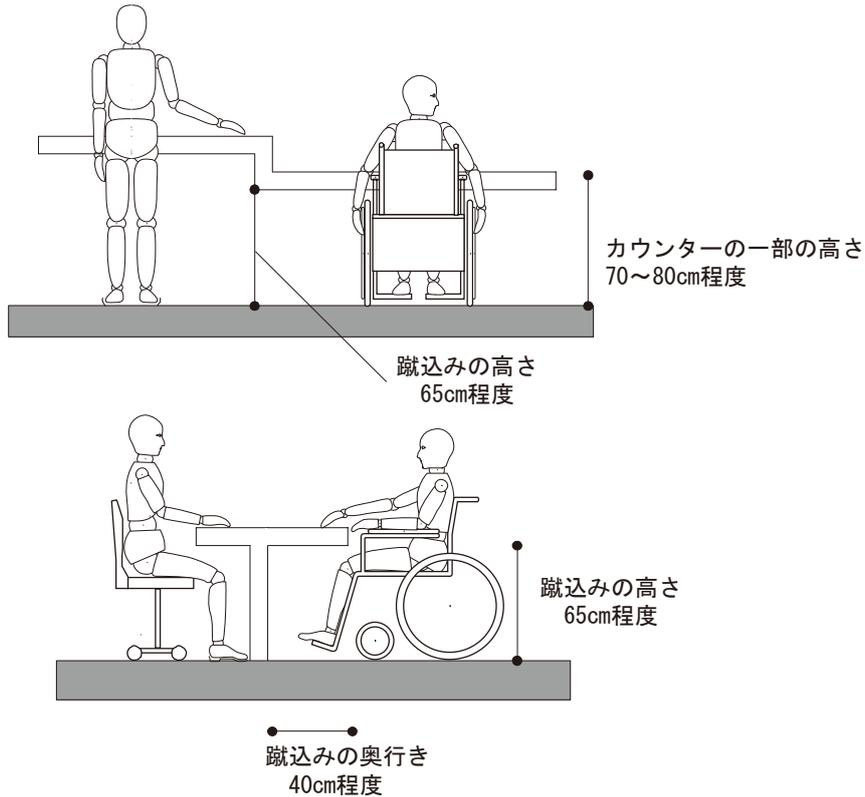
基本的な考え方

乗車券等販売所、待合所及び案内所は公共交通機関の施設における主要施設のひとつであることから、円滑な移動経路、使用しやすい設備に加え、聴覚障害者等との意思疎通にも配慮したものである必要があります。

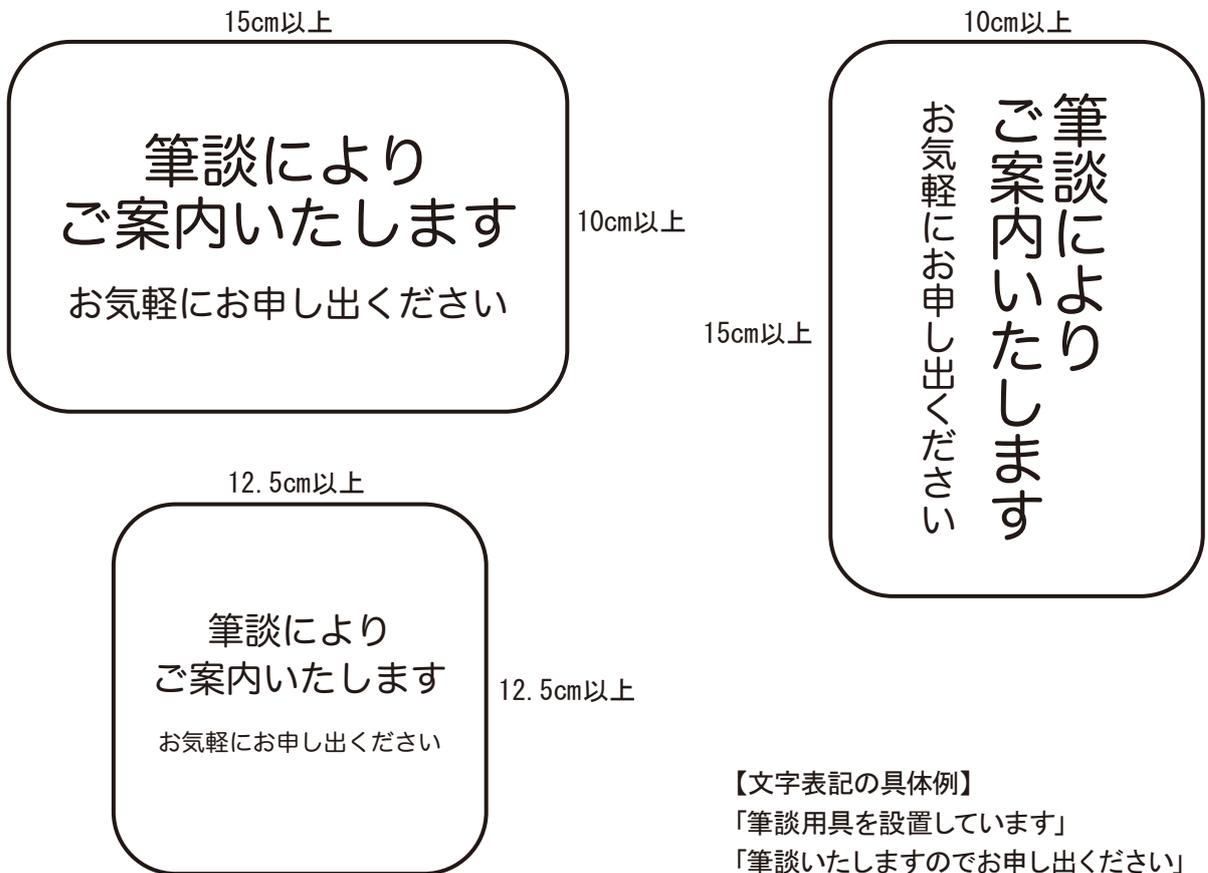
整備項目	整備基準	より望ましい基準
乗車券等販売所等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共交通移動等円滑化経路とを結ぶ通路等の1以上を、下の「公共交通移動等円滑化経路とを結ぶ通路等」の基準に適合</li> <li>●カウンターを設ける場合は、車いす使用者の利用に配慮した高さ下部空間を備えた構造（常時勤務する者が容易にカウンターの前に出て対応できる場合を除く）</li> <li>●乗車券等販売所又は案内所に、聴覚障害者が文字により意思疎通を図るための設備を設置（勤務する者を置かない場合を除く）</li> <li>●聴覚障害者が文字により意思疎通を図るための設備を有している旨を表示</li> </ul>	
出入口	<ul style="list-style-type: none"> <li>●有効幅 <u>90cm以上</u></li> <li>●戸を設ける場合は、自動的に開閉するものとするなど車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造で、前後に高低差がないこと（傾斜路を併設する場合を除く）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●180cm以上</li> </ul>
公共交通移動等円滑化経路とを結ぶ通路等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幅員 <u>140cm以上</u>（構造上の理由により<u>120cm以上</u>でも可（通路の末端を車いすが転回できる広さとし、50m以内ごとに車いすの転回できる場所を設ける）</li> <li>●戸を設ける場合は、自動的に開閉するものとするなど車いす使用者が容易に開閉して通過できる構造で、前後に高低差がないこと（傾斜路を併設する場合を除く）</li> <li>●照明設備の設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●180cm以上（構造上の理由により140cm以上でも可（通路の末端を車いすが転回できる広さとし、50m以内ごとに車いすの転回できる場所を設ける）</li> </ul>

●条例による整備基準、●より望ましい基準、細字は標準的な寸法や配慮の一例で参考となる内容

■ カウンターの設置例



■ 文字による意思疎通ができる旨の表示例



(出典：「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」国土交通省)



Ⅱ-10

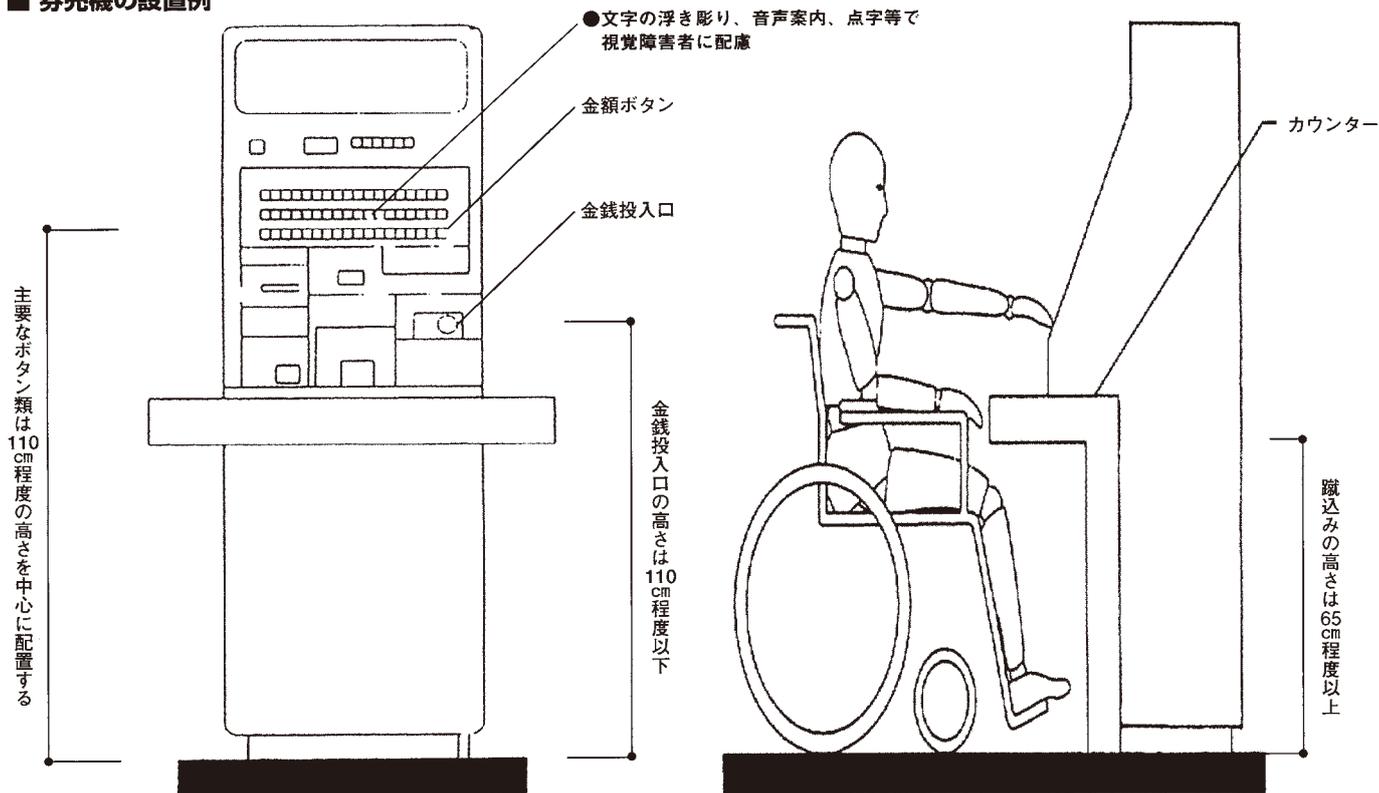
# 券売機



券売機は、車いす使用者及び視覚障害者の利用に配慮したものとする必要があります。

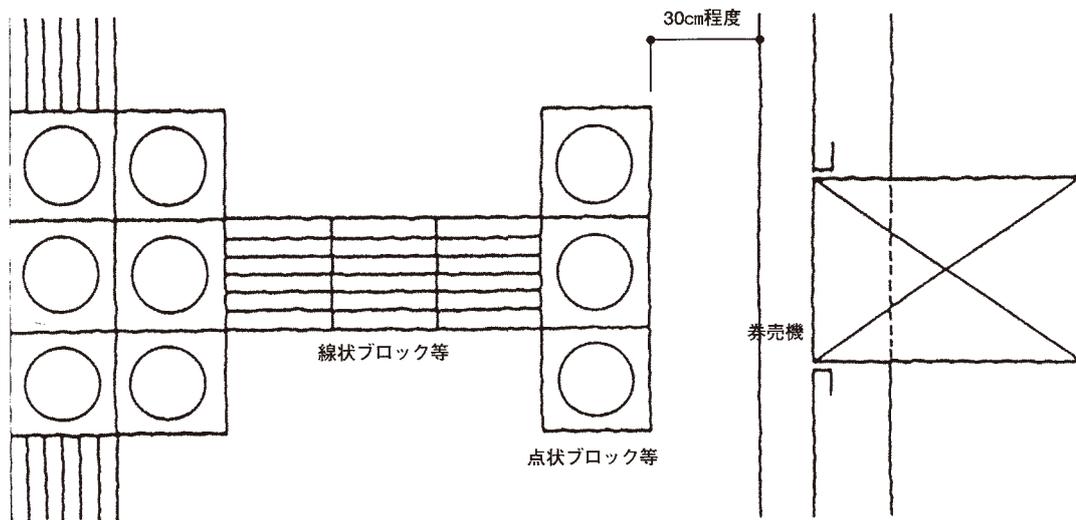
整備項目	整備基準	より望ましい基準
券売機	<ul style="list-style-type: none"> <li>●車いす使用者の利用に配慮した金銭投入口、操作部分</li> <li>●金銭投入口、操作部分、操作方法について、視覚障害者に配慮した設備（文字等の浮き彫り、音声による案内、点字等）の設置</li> <li>●前方又は横方向に水平スペースの確保</li> </ul>	

■ 券売機の設置例



車いすが容易に接近しやすいようカウンター下部に蹴込みを設ける

■ 視覚障害者に対する誘導の例



視覚障害者誘導用ブロック



Ⅱ-11

# 休憩設備

基本的な  
考え方▶

高齢者、障害者が体を休めるための設備を設けることが求められます。

整備項目	整備基準	より望ましい基準
休憩設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害者、高齢者等の休憩の用に供する設備の設置（旅客の円滑な流動に支障がある場合を除く）</li> </ul>	